



## 「タテ」でも「ヨコ」でもない、「ナナメの関係」で子どもを支える

40代後半にリクルートから教育界に転身し、初の民間人校長になった藤原和博氏の名前を聞いたことのある方もいらっしゃることでしょう。杉並区立和田中学校や奈良市立一条高等学校で実施された「よのなか科」などが話題になったこともあります。この藤原氏の著書『校長先生になろう!』の冒頭に、「ナナメの関係」が述べられています。

今週末から始まる夏休み。子どもを育てるのは家庭が中心ですが、ちょっと「ナナメの関係」で、いまの子どもたちを支えていきませんか？まずは、互いに声をかけ合うことから！『校長先生になろう』から引用して、以下に紹介します。



(略) だとすれば、子どもたちのまわりに、親でも先生でもない大人の存在が必要だということもわかってもらえるだろうか。

子どもが大人になるためには、親や先生以外の大人との人間関係が必須なのである。それも、いい子であることを強要されたり、評価されたり、成績をつけられたりするののない、利害関係のない第三者との関係である。友だちとの距離感を教わったり、悩みを聞いてもらえたり、何となく緩衝剤になってくれたり・・・いつかの逃げ場や精神的な居場所としても。

あなただって、父親に『そんなこと、絶対ダメだ!』と言って否定されたことを、「いいじゃないかなあ、失敗したって」とサポートしてくれたオジさんや、「お父さんが言っているのはこういうことなんじゃない?」などと通訳してくれたおネエさんの存在に助けられたことがあるはずだ。そうして、ようやく自分の居場所が見つかった思い出もあるんじゃないだろうか。

こうした直接の利害関係のない第三者と子どもたちとの関係を「**ナナメの関係**」と呼ぶ。

親と子や先生と生徒のような「タテの関係」や、友だち同士の「ヨコの関係」と区別するためだ。肉親であるかどうかに関わらず、世代の違うおニイさん、おネエさん、オジさん、オバさん、おジイちゃん、おバアちゃんたちとの関係。

こうしてみると、人間関係のあり方を身につける道場とも言える「**ナナメの関係**」が、いまの子どもたちには圧倒的に不足していることがわかる。

地域社会を崩壊させてしまったからだ。地域社会には、商店街や町会やご近所との関係だけでなく、兄妹や親戚や老人世代と同居する家族そのものも含まれる。いわば「人間が子どもから大人として揉まれるための装置」である。

深刻なイジメ問題の本質はここにある、と私は思う。(中略)

この仮説が正しいとするなら、「**ナナメの関係**」の復興が急務である。(以下省略)

言い換えるなら、子どもを中心にした家庭と地域と学校の『パートナーシップ』ではないでしょうか。「やってあげた」「やってもらった」というものではなく、自然な姿を目指したいと思います。利害関係なく、同じ目標のもとでそれぞれの立場から取り組めるとすばらしいと思います。

このパートナーシップは、互いの信頼の上に成り立つと考えます。信頼関係はそう簡単には築けません。ですから、とことん話し合うことが必要な場面もあります。直接話すことで、もしかすると「考えがよくわかった」「誤解していた」などということもあるかもしれません。明日から「個人面談」が始まります。短い時間ですが有意義なものにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。